



図 22.44 リンパ腫様丘疹症 (lymphomatoid papulosis)



図 22.45 節外性 NK/T 細胞リンパ腫 (extranodal NK/T-cell lymphoma)

### 5. リンパ腫様丘疹症 lymphomatoid papulosis

直径数 mm ~ 1 cm までの鱗屑を伴う紅褐色丘疹が体幹や四肢に出現し、中心に壊死や痂皮を伴うこともある。個疹は2~3週間で軽度の瘢痕、色素沈着を残して自然退縮するが、年余にわたって繰り返す、新旧の皮疹が混在する(図 22.44)。病理組織学的に CD30 陽性の大型異型細胞に加え、赤血球漏出、好酸球浸潤などを認める。未分化大細胞型リンパ腫と同一スペクトラムにあると考えられる。臨床的には良性疾患に近く、自然消退しない際にはステロイド外用、PUVA 療法を行う。

### 6. 節外性 NK/T 細胞リンパ腫, 鼻型 はながた extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type ★

主に NK 細胞の増殖による悪性リンパ腫。NK/T 細胞リンパ腫の大部分は鼻咽頭領域に生じ、転移巣として皮膚病変を形成する(続発性皮膚リンパ腫)が、皮膚原発のものもある。いずれも EB ウイルスの関連が示唆される。体幹や四肢に、潰瘍を形成しやすい局面や皮下結節を生じる(図 22.45)、眼瞼および顔面や口唇の腫脹、口唇アフタ、凍瘡様皮疹などをみることもある。

### 7. 種痘様水疱症様リンパ増殖症 hydra vacciniforme-like lymphoproliferative disorder ★

光線過敏症の一種である種痘様水疱症(13章 p.234 参照)では、大部分の症例で EB ウイルス感染と NK/T 細胞の増加

血管免疫芽球性 T 細胞リンパ腫  
(angioimmunoblastic T-cell lymphoma)

